

# 日興・アッシュモア・グローイング・マルチストラテジー・ファンド 〈愛称 ネクスト・スター〉

追加型投信／海外／資産複合

## 交付運用報告書

第36期(決算日2016年3月17日)

第37期(決算日2016年6月17日)

作成対象期間(2015年12月18日～2016年6月17日)

### 第37期末(2016年6月17日)

基準価額	8,987円
純資産総額	4,530百万円
第36期～第37期	
騰落率	△ 10.9%
分配金(税込み)合計	60円

(注) 騰落率は分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

(注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。

○交付運用報告書は、運用報告書に記載すべき事項のうち重要なものを記載した書面です。その他の内容については、運用報告書(全体版)に記載しております。

○当ファンドは、投資信託約款において運用報告書(全体版)に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めております。運用報告書(全体版)は、下記の手順にて閲覧・ダウンロードいただけます。

＜運用報告書(全体版)の閲覧・ダウンロード方法＞

右記URLにアクセス ⇒ ファンド検索機能を利用して該当ファンドのページを表示 ⇒ 運用報告書タブを選択 ⇒ 該当する運用報告書をクリックしてPDFファイルを表示

○運用報告書(全体版)は、受益者の方からのご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

### 受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、「日興・アッシュモア・グローイング・マルチストラテジー・ファンド」は、2016年6月17日に第37期の決算を行ないました。

当ファンドは、主として、新興国の様々な資産に投資を行なう投資信託証券に投資を行ない、中長期的な信託財産の成長をめざして運用を行なってまいりました。

ここに、当作成対象期間の運用経過等についてご報告申し上げます。

今後とも一層のお引き立てを賜りますようお願い申し上げます。

## 日興アセットマネジメント株式会社

東京都港区赤坂九丁目7番1号  
http://www.nikkoam.com/

当運用報告書に関するお問い合わせ先

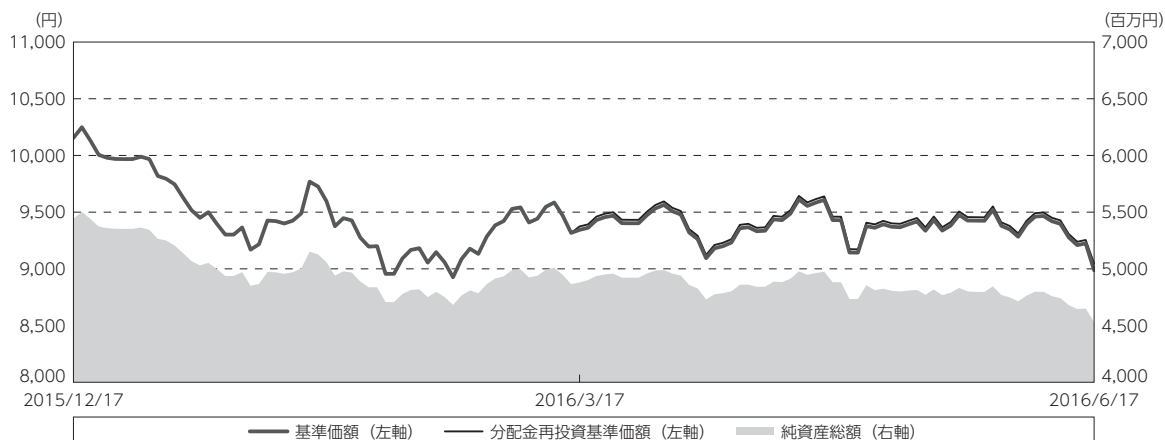
コールセンター 電話番号：0120-25-1404  
午前9時～午後5時 土、日、祝・休日は除きます。

●お取引状況等についてはご購入された販売会社にお問い合わせください。

## 運用経過

## 作成期間中の基準価額等の推移

(2015年12月18日～2016年6月17日)



第36期首：10,155円

第37期末：8,987円 (既払分配金(税込み):60円)

騰落率：△10.9% (分配金再投資ベース)

(注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。  
 (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件も異なりますので、お客様の損益の状況を示すものではありません。

(注) 分配金再投資基準価額は、作成期首(2015年12月17日)の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

(注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

(注) 当ファンドの運用方針に対し、適切に比較できる指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数を設定しておりません。

## ○基準価額の主な変動要因

当ファンドは、主として、新興国の様々な資産に投資を行なう投資信託証券に投資を行ない、中長期的な信託財産の成長をめざして運用を行なっております。当作成期間中における基準価額の主な変動要因は、以下の通りです。

## &lt;値上がり要因&gt;

- ・投資有価証券から分配金・利息収入を得たこと。
- ・国および個社レベルでの信用力改善を映じて、ウクライナ企業の社債が上昇したこと。
- ・資源価格底入れおよび政治情勢の改善を受けて、ブラジル企業の社債が上昇したこと。

## &lt;値下がり要因&gt;

- ・円高/アメリカドル安が進行したこと。
- ・資源企業向け投融資の一部で減損損失を計上したこと。

## 1万口当たりの費用明細

(2015年12月18日～2016年6月17日)

項 目	第36期～第37期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	49	0.513	(a) 信託報酬＝作成期間の平均基準価額×信託報酬率
( 投 信 会 社 )	(14)	(0.151)	委託した資金の運用の対価
( 販 売 会 社 )	(33)	(0.346)	運用報告書など各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供などの対価
( 受 託 会 社 )	( 2 )	(0.016)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) そ の 他 費 用	2	0.016	(b) その他費用＝作成期間のその他費用÷作成期間の平均受益権口数
( 監 査 費 用 )	( 0 )	(0.003)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
( 印 刷 費 用 )	( 1 )	(0.014)	印刷費用は、法定開示資料の印刷に係る費用
( そ の 他 )	( 0 )	(0.000)	その他は、信託事務の処理等に要するその他の諸費用
合 計	51	0.529	
作成期間の平均基準価額は、9,536円です。			

(注) 作成期間の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) その他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

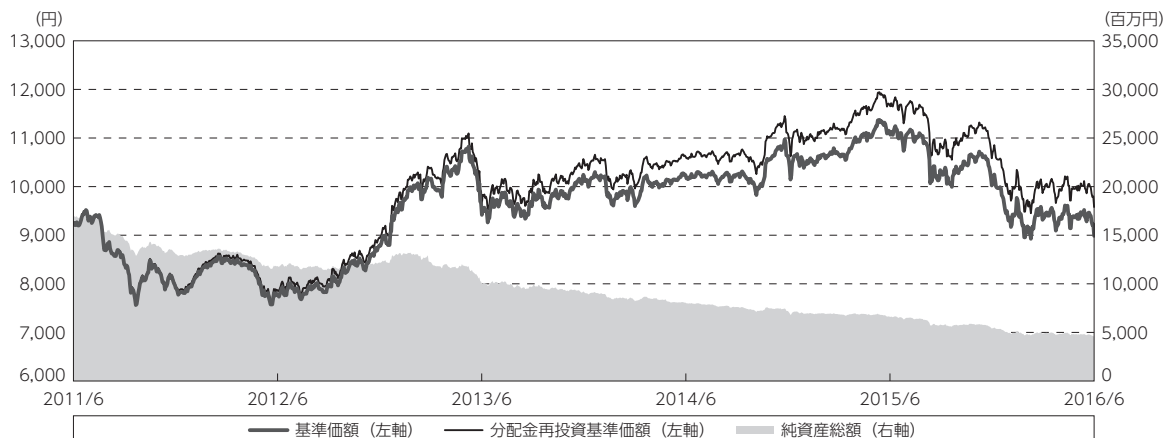
(注) 当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当たりの費用明細」が取得できるものについては「組入上位ファンドの概要」に表示することとしております。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を作成期間の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

(注) この他にファンドが投資対象とする投資先においても信託報酬等が発生する場合があります。

## 最近5年間の基準価額等の推移

(2011年6月17日～2016年6月17日)



- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。  
 (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件も異なりますので、お客様の損益の状況を示すものではありません。  
 (注) 分配金再投資基準価額は、2011年6月17日の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

	2011年6月17日 決算日	2012年6月18日 決算日	2013年6月17日 決算日	2014年6月17日 決算日	2015年6月17日 決算日	2016年6月17日 決算日
基準価額 (円)	9,258	7,735	9,558	10,167	11,068	8,987
期間分配金合計(税込み) (円)	—	120	120	120	120	120
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	△ 15.2	25.2	7.7	10.1	△ 17.8
純資産総額 (百万円)	16,973	11,726	10,078	7,988	6,586	4,530

- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。  
 (注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。  
 (注) 騰落率は1年前の決算応当日との比較です。  
 (注) 当ファンドの運用方針に対し、適切に比較できる指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数を設定しておりません。

**投資環境**

(2015年12月18日～2016年6月17日)

**(新興国株式市況)**

新興国株式は当期、プラスのリターンをもたらしました。中国経済・人民元市場の先行きに伴う不透明感や、原油価格の大幅下落を材料に2016年1月に大きく売り込まれた後、新興国株式はその後数ヵ月間反発し、特に3月は力強いパフォーマンスを示しました。F R B (米国連邦準備制度理事会) がハト派的 (景気に対して弱気) なスタンスに転じ、先行きの追加利上げの見通しが後退したことから、アメリカドルは下落に転じ、コモディティ価格が反転上昇、2月中旬以降の新興国株式市場の力強い上昇につながりました。5月には反落しましたが、プラス圏で期間末を迎えました。

**(新興国債券市況)**

ロシアはコモディティ価格、特に原油価格の回復から恩恵を受けました。2014年～2015年の交易条件ショックを受けて実施された堅実な金融・財政政策を好感し、投資家は同国の債券・株式両方に対して投資を増やしてきました。インフレ率も低下しており、中央銀行が利下げを行なう余地が生じています。エクアドル債券も上昇しました。原油価格の大幅な下落を受けて、政府は歳出カットを発表するとともに、中国を中心に、自国の資金需要をカバーするのに十分な一連の多国間ローン契約を締結しました。市場はまた、同国政府が税制改革法案を検討していることも好感しました。

**(国内短期金利市況)**

無担保コール翌日物金利は、期間の初めから2016年2月前半までは、概ね0.05～0.09%の範囲で安定的に推移しました。2月後半以降は、日銀によるマイナス金利の導入開始などを受けて低下し、-0.06%近辺で期間末を迎えました。

国庫短期証券3ヵ月物金利は、期間の初めから2016年1月中旬にかけては、概ね-0.10～0.00%の範囲で推移しました。1月下旬以降は、日銀によるマイナス金利の導入を受けて金利低下が進み、-0.26%近辺で期間末を迎えました。

**(為替市況)**

新興国通貨は上昇しました。期間の初めから2016年2月中旬にかけてはコモディティ安や、その他リスク資産の調整により、資源国通貨を中心に新興国通貨は下落しました。その後は、原油価格の底打ち、アメリカドル高の一服から市況は好転し、新興国通貨は上昇しました。また、ブラジルレアルは予想外に力強い上昇となりました。新興国全体のマクロ環境が改善したのに加え、同国大統領の職務停止に伴い政治環境が変化したことが背景に挙げられます。コモディティ価格が回復したこと、およびインフレ率が低下したこともポジティブに作用しました。

## 当ファンドのポートフォリオ

(2015年12月18日～2016年6月17日)

## (当ファンド)

当ファンドは、収益性を追求するため、「アッシュモア・グローイング・マルチストラテジー・ファンド・リミテッド クラスB」投資証券を高位に組み入れ、「マネー・オープン・マザーファンド」受益証券への投資を抑制しました。

## (アッシュモア・グローイング・マルチストラテジー・ファンド・リミテッド クラスB)

新興国市場の債券、株式を中心とした幅広い投資テーマの資産を投資対象とし、各投資テーマへの資産配分を積極的に行ない、様々な投資機会を活用しました。

2016年1～3月は、新興国株式と現地通貨建て債券への投資を拡大しました。株式では、中国に対する懸念で市場が売り込まれた機会を利用して、投資配分を引き上げました。現地通貨建て債券においては、ロシアやブラジルなど、魅力的なバリュエーションで高い金利水準を提供している国を組み入れました。テーマ別投資配分を決定するにあたって最も重視したのは、引き続き対外債務でした。

期間中、スペシャル・シチュエーションの組入れはありませんでした。

## (マネー・オープン・マザーファンド)

運用の基本方針に従い、国庫短期証券の購入や現先取引、コールローンや金銭信託などを通じて、元本の安全性を重視した運用を行ないました。

## 当ファンドのベンチマークとの差異

(2015年12月18日～2016年6月17日)

当ファンドの運用方針に対し、適切に比較できる指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数を設定しておりません。

## 分配金

(2015年12月18日～2016年6月17日)

分配金は、基準価額水準、市況動向などを勘案し、以下のとおりいたしました。なお、分配金に充しなかった収益につきましては、信託財産内に留保し、運用の基本方針に基づいて運用いたします。

## ○分配原資の内訳

(単位:円、1万口当たり、税込み)

項 目	第36期	第37期
	2015年12月18日～ 2016年3月17日	2016年3月18日～ 2016年6月17日
当期分配金	30	30
(対基準価額比率)	0.320%	0.333%
当期の収益	5	4
当期の収益以外	24	25
翌期繰越分配対象額	1,080	1,056

(注) 対基準価額比率は当期分配金(税込み)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

## 今後の運用方針

### (当ファンド)

引き続き、「アッシュモア・グローイング・マルチストラテジー・ファンド・リミテッド クラスB」投資証券を原則として高位に組み入れ、「マネー・オープン・マザーファンド」受益証券への投資を抑制する方針です。

### (アッシュモア・グローイング・マルチストラテジー・ファンド・リミテッド クラスB)

世界経済のファンダメンタルズ（経済の基礎的条件）は一部の新興国経済にとって厳しい状況にあるものの、バリュエーションは魅力的な水準にあり、テクニカル面も下支えています。新興国の成長は貿易の鈍化と資金状況のタイト化により下押し圧力を受けていますが、新興国の発行体は非常に多様です。経済が最も脆弱な国々は調整プロセスの最中にあり、深刻な交易条件ショックに苦しんだ国々も含めて、経常収支が赤字から黒字（あるいは小幅の赤字）に転換してきています。

引き続き、新興国市場における「米ドル建て債券」、「現地通貨建て債券」、「株式」といった一般的な運用戦略に加え、信用度の改善に着目した「スペシャル・シチュエーション」などの複数の戦略の活用を検討して、運用を行なう方針です。

将来の市場環境の変動などにより、当該運用方針が変更される場合があります。

### (マネー・オープン・マザーファンド)

引き続き、安定した収益の確保をめざして安定運用を行なう方針です。主要投資対象は、わが国の国債および格付の高い公社債とし、それらの現先取引なども活用する方針です。また、コールローンや金銭信託などに投資することもあります。

将来の市場環境の変動などにより、当該運用方針が変更される場合があります。

今後ともご愛顧賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

## お知らせ

2015年12月18日から2016年6月17日までの期間に実施いたしました約款変更はございません。

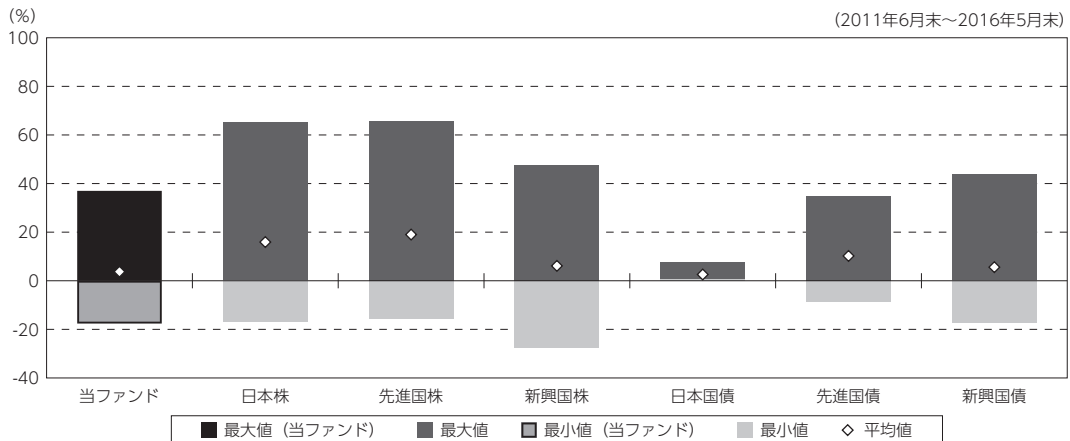
## 当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／海外／資産複合
信託期間	2007年4月27日から2022年6月17日までです。
運用方針	主として投資信託証券（投資信託または外国投資信託の受益証券（振替投資信託受益権を含みます。）および投資法人または外国投資法人の投資証券をいいます。）に分散投資を行ない、中長期的な信託財産の成長をめざして運用を行ないます。
主要投資対象	「アッシュモア・グローイング・マルチストラテジー・ファンド・リミテッドクラスB」投資証券 「マネー・オープン・マザーファンド」受益証券 上記の投資信託証券を主要投資対象とします。
運用方法	主として、新興国の様々な資産に投資を行なう投資信託証券に投資を行ない、中長期的な信託財産の成長をめざします。新興国市場における「米ドル建て債券」、「現地通貨建て債券」、「株式」といった一般的な運用戦略に加え、信用度の改善に着目した「スペシャル・シチュエーション」など複数の戦略（マルチストラテジー）を活用します。
分配方針	毎決算時、原則として分配対象額のなかから、基準価額水準、市況動向などを勘案して分配を行なう方針です。ただし、分配対象額が少額の場合には分配を行なわないこともあります。



## (参考情報)

## ○当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(単位:%)

	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値	37.0	65.0	65.7	47.4	7.7	34.9	43.7
最小値	△ 17.6	△ 17.0	△ 15.6	△ 27.4	0.4	△ 8.6	△ 17.4
平均値	3.7	15.9	19.0	6.1	2.6	10.2	5.6

(注) 全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注) 2011年6月から2016年5月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。

(注) 上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。

(注) 当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

## 《各資産クラスの指数》

日本株：東証株価指数 (TOPIX、配当込)

先進国株：MSCI-KOKUSAI インデックス (配当込、円ベース)

新興国株：MSCI エマージング・マーケット・インデックス (配当込、円ベース)

日本国債：NOMURA-BPI 国債

先進国債：シティ世界国債インデックス (除く日本、円ベース)

新興国債：JP モルガン GBI-EM グローバル・ディバーシファイド (円ヘッジなし、円ベース)

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

## 指数について

●東証株価指数 (TOPIX、配当込) は、東京証券取引所第一部に上場している国内普通株式全銘柄を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、東京証券取引所に帰属します。●MSCI-KOKUSAI インデックス (配当込、円ベース) は、MSCI Inc. が開発した、日本を除く世界の先進国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc. に帰属します。●MSCI エマージング・マーケット・インデックス (配当込、円ベース) は、MSCI Inc. が開発した、世界の新興国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc. に帰属します。●NOMURA-BPI 国債は、野村証券株式会社が公表している指数で、その知的財産権は野村証券株式会社に帰属します。なお、野村証券株式会社は、対象インデックスの正確性、完全性、信頼性、有用性を保証するものではなく、対象インデックスを用いて行われる日興アセットマネジメント株式会社の事業活動・サービスに関し一切責任を負いません。●シティ世界国債インデックス (除く日本、円ベース) は、Citigroup Index LLC が開発した、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した指数です。なお、当指数に関する著作権、商標権、知的財産権その他一切の権利は、Citigroup Index LLC に帰属します。●JP モルガン GBI-EM グローバル・ディバーシファイド (円ヘッジなし、円ベース) は、J.P. Morgan Securities LLC が算出、公表している、新興国が発行する現地通貨建て国債を対象にした指数です。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、J.P. Morgan Securities LLC に帰属します。

## 当ファンドのデータ

## 組入資産の内容

(2016年6月17日現在)

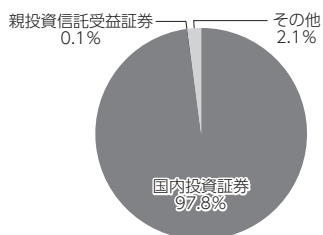
## ○組入上位ファンド

銘柄名	第37期末
	%
アッシュモア・グローイング・マルチストラテジー・ファンド・リミテッドクラスB	97.8
マネー・オープン・マザーファンド	0.1
組入銘柄数	2銘柄

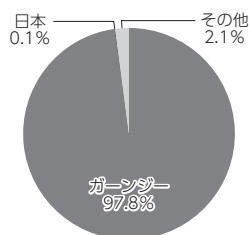
(注) 組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。

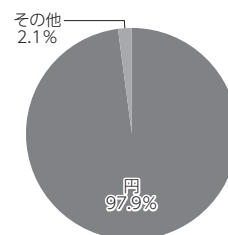
## ○資産別配分



## ○国別配分



## ○通貨別配分



(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。

(注) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

(注) 国内投資証券には外国籍(邦貨建)の投資証券を含めております。

(注) その他にはコール・ローン等を含む場合があります。

## 純資産等

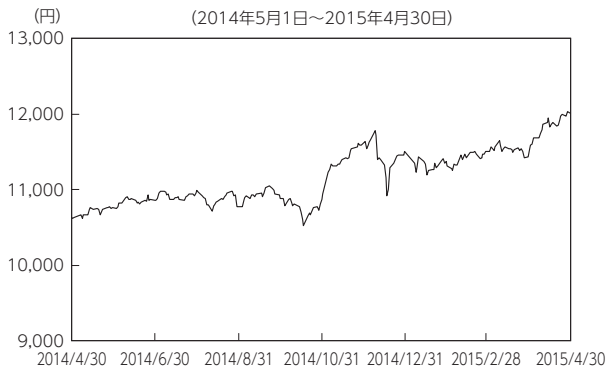
項目	第36期末	第37期末
	2016年3月17日	2016年6月17日
純資産総額	4,879,856,378円	4,530,928,932円
受益権総口数	5,222,543,207口	5,041,872,400口
1万口当たり基準価額	9,344円	8,987円

(注) 当作成期間(第36期~第37期)中における追加設定元本額は23,360,599円、同解約元本額は340,797,449円です。

## 組入上位ファンドの概要

### アッシュモア・グローイング・マルチストラテジー・ファンド・リミテッド クラスB

【基準価額の推移】



【1万口当たりの費用明細】

(2014年5月1日～2015年4月30日)  
当該期間の1万口当たりの費用明細については開示されていないため、掲載しておりません。

【組入上位10銘柄】

(2015年4月30日現在)

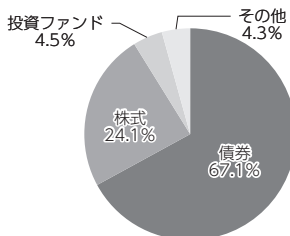
銘柄名	業種 / 種別等	通貨	国(地域)	比率
1 Sea Production Ltd PIK	債券	アメリカドル	シンガポール	4.5%
2 Baidu Inc ADR	株式	アメリカドル	中国	2.7%
3 Kazkommertsbank JSC 8%	債券	アメリカドル	カザフスタン	2.4%
4 KWG Property Holding Ltd 8.975%	債券	アメリカドル	中国	2.3%
5 China Construction Bank	株式	香港ドル	中国	2.1%
6 MHP SA 8.25%	債券	アメリカドル	ウクライナ	2.0%
7 Dubai World TLB 2% + 1.75% PIK	債券	アメリカドル	アラブ首長国連邦	1.9%
8 China SCE Property Holdings Ltd 11.5%	債券	アメリカドル	中国	1.7%
9 Ashmore SICAV Indian Small-Cap Equity Fund	投資ファンド	アメリカドル	ルクセンブルク	1.6%
10 Naspers Ltd	株式	南アフリカランド	南アフリカ	1.6%
組入銘柄数			277銘柄	

(注) 比率は、純資産総額に対する割合です。

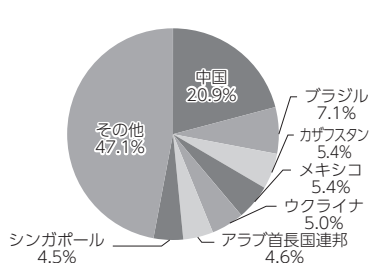
(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。

(注) 国(地域)につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

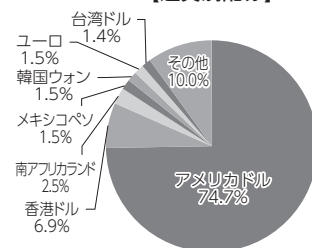
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



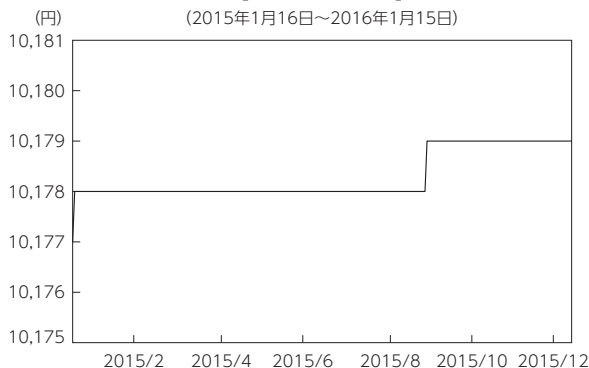
(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。

(注) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

## マネー・オープン・マザーファンド

## 【基準価額の推移】

(2015年1月16日～2016年1月15日)



## 【1万口当たりの費用明細】

(2015年1月16日～2016年1月15日)

該当事項はございません。

## 【組入上位10銘柄】

(2016年1月15日現在)

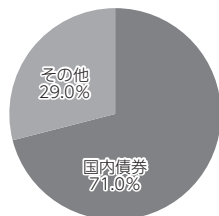
	銘柄名	業種 / 種別等	通貨	国 (地域)	比率
1	第579回国庫短期証券	国債証券	円	日本	60.8
2	第564回国庫短期証券	国債証券	円	日本	10.1
3	—	—	—	—	—
4	—	—	—	—	—
5	—	—	—	—	—
6	—	—	—	—	—
7	—	—	—	—	—
8	—	—	—	—	—
9	—	—	—	—	—
10	—	—	—	—	—
組入銘柄数			2銘柄		

(注) 比率は、純資産総額に対する割合です。

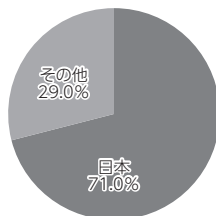
(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書 (全体版) に記載しております。

(注) 国 (地域) につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

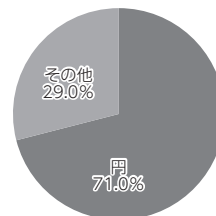
## 【資産別配分】



## 【国別配分】



## 【通貨別配分】



(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。

(注) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

※当マザーファンドの計算期間における運用経過の説明は運用報告書 (全体版) をご参照ください。